

R7 校内研修実践事例シート

実践タイトル	年賀状を書こう
学部・学年 対象児童生徒	高等部 1年
実践場面（教科、領域、行事など） 「単元・題材名」	国語科 年賀状を書こう・文字やイラストをレイアウトしよう
対象児童生徒（集団）の実態	読み書きに困難さがある。 言葉や文を書くことが難しく、視写ならできる。
使用アプリ、使用機器	Word、iPad
ICT 活用の意図 <input type="checkbox"/> 思考の補助 <input type="checkbox"/> 共有 <input type="checkbox"/> 共同編集 <input type="checkbox"/> 保存提出 <input type="checkbox"/> 検索収集 <input type="checkbox"/> 撮影録音 <input type="checkbox"/> 再生 <input type="checkbox"/> 提示・配布 <input type="checkbox"/> 一覧表示	～音声入力を使って、年賀状のデザインを考えることができるようにする。
実践の様子・成果	<p>事前学習として新年の挨拶や年賀状等によく使われている言葉を生徒と一緒に考えたり、年賀状の見本を見たりして年賀状のデザイン作成を行った。文字の入力が難しい生徒が多くいたが、音声入力を使うことで文字を入力することができた。年賀状のサイズや文字の大きさ、イラスト等も考え配置する姿が見られた。今回は年賀状で行ったが、他の手紙や通知についても同じように音声入力を活用することで作成が可能になると考える。</p> <p>・iPad (Word)、音声入力、画像検索</p>
活用のポイント	発音が聞き取りにくい生徒は音声入力をした際に、入力の誤りがあり、内容の確認が必要であったが、生徒が発音した言葉が文字になることで、普段は一人で文字を書くことが難しい生徒も画面を視写することができ、一人でも文字を書くことができた。
今後の課題	ICT の操作やアプリの選択等の支援・指導は引き続き必要になり、誤字等の確認作業も必要になる。また、定型文や語彙を増やすことで、よりよい文章構成になったり、年賀状以外の手紙や通知を書くことができたりすると考える。

